

地

域

連

携

January.2023

Vol.03

はびきの Medical Net



新病院ニュース

NEW TOPICS

FUTURE

はびきのパーソン

地域医療連携NEWS

学術報告さーと

セミナーのご案内

PICK UP

連携医療機関のご紹介

工事竣工した新病院内部の一部紹介

羽曳野市 広報「はびきの」 令和5年1月号「新春対談」

大阪アズマネットワーク～地域と共に吸入療法の均てん化を目指す～

間質性肺疾患 最新治療

医局 事務局

乳がんは早期発見と早期の個別化治療

アドバンス・ケア・プランニングの実際

“ロンドン大学衛生熱帯医学大学院で学んで”

「South Osaka Cure & Care(SOCC)」のご案内

「地域と病院をつなぐ」地域医療連携室

医療法人 光仁幸会 西本産婦人科



地方独立行政法人大阪府立病院機構

大阪はびきの医療センター

新病院 ニュース

地域になくてはならない医療機関をめざして

令和5年5月 新病院 開院予定

～工事竣工した新病院内部の一部をご紹介します～

<地域の医療機関の先生方へ>

新年明けましておめでとうございます。院長の山口です。

新病院の整備工事は、昨年末に竣工を迎えることができました。また、年末には、手術支援ロボット「ダビンチXi」と人工関節手術支援ロボット「Mako」が納入されました。

現在、医療機器や什器の搬入、電子カルテの整備などを順次行っているところであり、本年5月GW明けの開院に向け、準備をしっかりと進めてまいります。

新病院開院を契機として、当センターが、地域の先生方とともに地域医療に貢献できるよう、スタッフ一丸となって取り組んでまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



院長 山口 誓司

<外観・内観>



■外観（正面玄関）



■ホスピタルストリート

<手術室・ICU・HCU（3階）>



■ダビンチXi（デュアルコンソール）



■ロボットアーム手術支援システム「Mako」



■手術室



■手術ホール

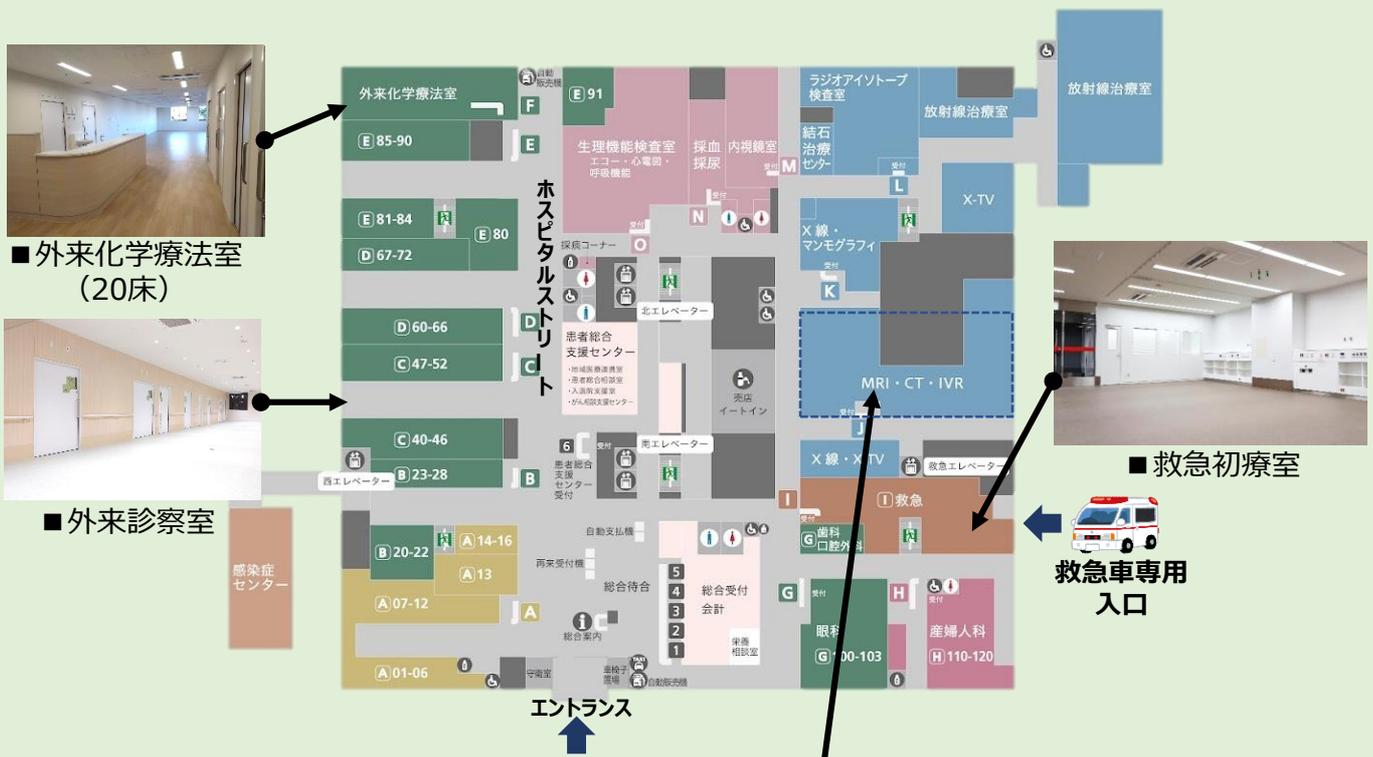


■ICU



■HCU

<総合受付・外来・生理検査・放射線・救急等（2階）>



■ MRI(3T)
(シーメンス MAGNETOM Vida)



■ CT(2管球搭載)
(シーメンス SOMATOM Drive)



■ 血管撮影装置
(フィリップス Azurion7 C20)

<病棟（1・4・5階）・リハビリ（6階）>



■ スタッフステーション



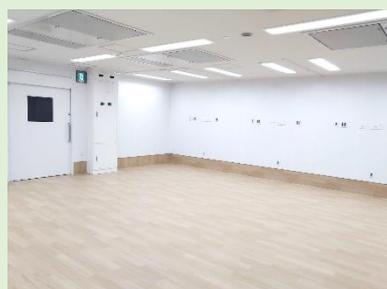
■ 第2種感染症病床(陰圧)



■ デイルーム



■ 特別個室



■ NICU



■ リハビリテーション室

謹賀新年 ~令和五年新春対談~

~羽曳野市の「広報はびきの」(令和5年1月号)に
新春対談記事が掲載されました~



山入端 創 羽曳野市長、
藤井 睦子 大阪府健康医療部部長、
西元 宗一 大阪府議会議員、
金銅 宏親 羽曳野市議会議員、
山口院長、以上5名の方々に羽曳野市
主催の新春対談が行われました。

それぞれの方々より、新病院に対する期
待を大いに語っていただきました。
対談の内容については、羽曳野市の「広
報はびきの」令和5年1月号に掲載され
ております。羽曳野市ホームページから
ダウンロードできますのでぜひご覧ください。

◆新春対談の一部をご紹介します!◆ (「広報はびきの」令和5年1月号より抜粋) ※敬称略

【令和5年5月「大阪はびきの医療センター」がオープン】

- 山入端：大阪はびきの医療センターでは、呼吸器アレルギー感染症等の専門病院としての役割はもちろんのこと、地域で必要とされる小児科、周産期医療に注力をお願いしており、来年度からは総合病院としての機能を拡充していただくということで、市民の皆様への安全・安心を守る上で大変心強く本当にありがとうございます。令和5年5月にオープンする新病院をご紹介します。
- 山口：新病院は、6階建ての構造で、1階が結核の病棟、2階がメインエントランスや外来、放射線・検査室、3階に手術室やICU、HCU、透析室、4階に小児科や産婦人科、NICU、5階が感染症病床や一般病床、6階にリハビリテーション科やレストラン、患者さん向けの図書室などを配置しております。羽曳野の豊かな自然をイメージして設計しており、森や橋、桃、空、風、大地などをモチーフに、外来や病棟の壁紙を色分けしています。羽曳野市民の方により親近感を持っていただきたいと思い、市の花の桃や、市の木の橋を病棟や部屋の名前に使わせてもらっています。
- 山入端：健康で安心なまちづくりをめざす上でとても待ち遠しいですね。

【大阪府として新病院に期待すること】

- 山入端：府立病院機構の設立団体である大阪府として、新病院に期待されることを教えてください。
- 藤井：呼吸器アレルギー感染症の専門性をさらに向上させていただくことや地域の拠点病院としての機能を向上させるということを期待しています。
- 山入端：地域の拠点病院として特にどのようなことを期待されているのでしょうか。
- 藤井：例えば周産期医療では年間約1,000分娩、南河内のおおよそ3分の1を支えています。周産期医療や小児の救急をはじめ地域の皆さんが、いざというときに頼りになる医療機関としての機能を発揮いただき、地域の拠点病院として、住民の皆さんから信頼されるのはもちろんですが、地域の医療機関からも信頼されて、高度な治療が必要になった場合に、はびきの医療センターにお願いしようと思っただけの病院として、その機能を向上させることを強く期待しています。
- 山入端：市民の皆様からの期待が高いことを、本当に肌で感じております。山口院長、藤井部長からのお話をお聞きして、市民の期待にお応えいただける病院ということが認識できました。西元府議、金銅議長は、新病院についてどのような感想をお持ちでしょうか。
- 西元：南河内でも有数の分娩実績を誇る施設でもありますし、呼吸器疾患、アレルギー疾患においても大阪府の中核的役割を果たしている病院だと思っています。開院後には、地域での様々なニーズも出てくると思います。地域医療の充実、暮らしていく上での安心に繋がると思っていますので、私も地元府議として、これからも地域の声をしっかりと伺い、また反映できるように努めてまいります。
- 金銅：私はもともと羽曳野病院という病院名に親しみがあったものだから、それが呼吸器・アレルギー医療センターになったときに、羽曳野の名前がなくなるんだと本当に寂しい気持ちになったんです。大阪はびきの医療センターということでもう一度、「はびきの」の名前を使っていただいて、本当に喜んでます。



大阪アズマネットワーク ～地域と共に吸入療法の均てん化を目指す～

大阪はびきの医療センター
薬局 薬剤師 松下 一樹

大阪アズマネットワークは、病薬連携の一環として南大阪地域の喘息治療における連携、喘息の啓蒙活動、吸入療法の均てん化を目的に活動しています。

■講義

吸入薬は、アドヒアランスが良くても、手技次第で治療効果に差が出ます。また、薬剤毎に充填方法やセット方法などの特徴が異なるため、吸入指導は非常に重要になります。



■グループワーク

吸入デバイスを用いた吸入指導のグループワークを行い、吸入薬の正しい手技について学び、日常では聞けないような疑問や、実際に悩んだ症例について共有しています。



■多職種・地域連携

アレルギー・リウマチ内科の医師・看護師・薬剤師、地域クリニック医師、看護師及び地域の保険薬局薬剤師などの多職種が参加しています。独自に大阪吸入指導マイスターを認定しており、吸入療法の均てん化のために活動されています。

また、グループワークのファシリテーターとして参加していただいています。大阪吸入指導マイスターは医師、薬剤師、看護師であれば取得可能です。



■新たな取組

コロナ禍となり、現在はオンラインにて開催しています。今後は感染状況に応じてオンラインでの吸入指導グループワークを行う予定です。喘息の吸入療法以外にも食物アレルギーや自己注射薬のグループワークを行い、新たな取り組みも進めています。



■イベントのご案内

南大阪地域の保険薬局やクリニック、訪問看護ステーションにも大阪アズマネットワークの案内文書をFAXにて送付させていただきます。

ご興味がある方は是非お気軽にご参加ください！
(右のような案内が届きます！)

次回の第18回大阪アズマネットワークは、
2023年9月開催を予定しています！

こちらのFacebookをフォローしていただくと、情報が得ることができます。



第17回 大阪アズマネットワークのご案内

■啓 時下、先生方におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。
さて、この度、下記の要領にて「第17回 大阪アズマネットワーク」を開催いたします。
ご多忙の折とは存じますが、万障繰り合わせの上ご参加賜りますようお願い申し上げます。

■白

大阪はびきの医療センター アレルギー・リウマチ内科 松野 治

日時：令和4年10月22日(土) 15:00～16:40
場所：ZOOMを介したWEB配信 (スイスホテル南海大阪より配信)
住所：大阪府中央区難波5-1-60

15:00-15:05	開会の挨拶	大阪はびきの医療センター アレルギー・リウマチ内科 部長 松野 治 先生
15:05-15:50	【座長】大阪はびきの医療センター アレルギー・リウマチ内科 部長 松野 治 先生 先生 「喘息診療における他(多)職種連携」	大阪公立大学大学院医学研究科 呼吸器内科学 講師 渡辺 徹也 先生
15:50-16:00	【幹事】大阪はびきの医療センター 看護部 看護師長 関田 恵 先生 「デュピルマブ(デュピセント®)の自己注射指導と多職種連携」	大阪はびきの医療センター 外来看護師 萩野 恵梨花 先生
16:00-16:35	【幹事】大阪はびきの医療センター 看護部 看護師長 関田 恵 先生 「デュピルマブ(デュピセント®)を用いたグループワーク」	
16:35-16:40	閉会の挨拶	大阪はびきの医療センター 薬局 薬局長 金網 葉子 先生



松岡 洋人 (まつおか ひろと)

大阪はびきの医療センター
呼吸器内科主任部長

【略歴】

- 平成2年 大阪大学医学部医学科卒業
- 平成2年 大阪大学医学部附属病院 第三内科
および集中治療科 研修医
- 平成4年 国立療養所近畿中央病院 内科
レジデント (呼吸器)
- 平成5年 公立学校共済組合近畿中央病院
呼吸器内科 医員
- 平成9年 大阪大学医学部 分子病態内科学教室
研究生、医員
- 平成14年 大阪府立成人病センター
呼吸器内科 医長
- 平成15年 大阪府立急性期・総合医療センター
内科 医長
- 平成18年 大阪大学医学部附属病院
呼吸器内科 医員
- 平成18年 大阪大学大学院医学系研究科
緩和医療学寄付講座 助手
- 平成19年 大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター
呼吸器内科 副部長
- 平成21年 大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター
集中治療科 部長
- 平成27年 大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター
呼吸器内科 部長
- 平成29年 大阪はびきの医療センター
呼吸器内科 部長

【所属学会】

- 日本内科学会
- 日本呼吸器学会
- 日本肺癌学会
- 日本呼吸療法医学会
- 日本集中治療医学会
- 日本緩和医療学会

間質性肺疾患に対する抗線維化剤について

当科では、多数の間質性肺疾患（特発性間質性肺炎、過敏性肺炎、膠原病肺など）の患者さんの診療をさせて頂いております。特発性間質性肺炎には特発性肺線維症（IPF）や非特異性間質性肺炎（NSIP）を含みます。

膠原病肺では、慢性関節リウマチ、多発性筋炎/皮膚筋炎、強皮症が中心です。薬物療法としては、過敏性肺炎や膠原病肺の場合はステロイドや免疫抑制剤の有効性が認められていますが、IPFの慢性期にはステロイドの有効性は否定されており、国際ガイドラインでもむしろ使用しないことを強く推奨ということになっています。

図1 間質性肺炎とは

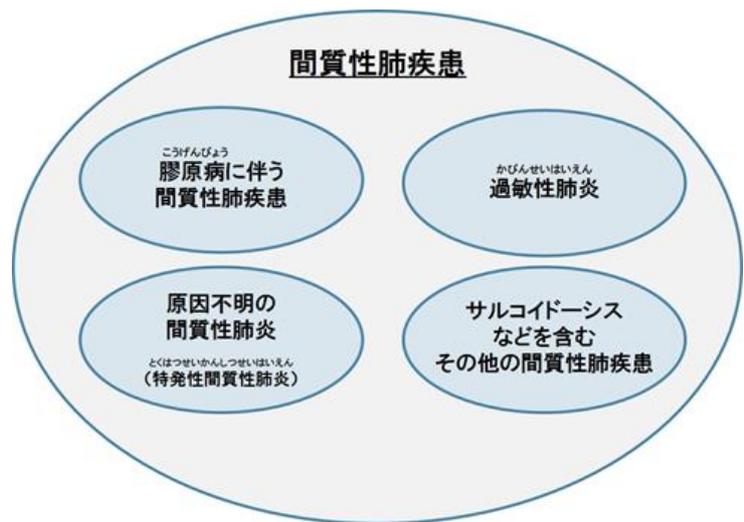
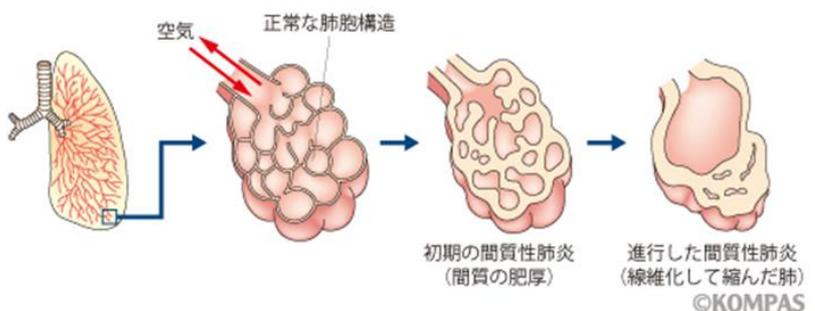


図2 初期の間質性肺炎から進行した間質性肺炎



慶應義塾大学病院KOMPASから許可を得て転載

URL : <https://kompas.hosp.keio.ac.jp/contents/000261.html>

～間質性肺疾患を疑う患者さんがおられたら当科へ～

図3 特発性肺繊維症（IPF）画像、蜂窩肺



特発性肺線維症（IPF）



蜂窩肺

では、IPF慢性期の治療はどうするかと言うと、抗線維化剤が使用できるようになっています。2008年12月からピレスパ®（ピルフェニドン）が販売されました。臨床試験では、呼吸機能悪化の抑制や生存期間の延長が示されています。

2015年8月にはオフェブ®（ニンテダニブ）が販売され、こちらも呼吸機能悪化の抑制が示され、急性増悪の発現の抑制の可能性も示されています。ともに発売時には適応は特発性肺線維症（IPF）のみでした。

ところが、オフェブについては、2019年12月に「全身性強皮症に伴う間質性肺疾患」に、2020年5月には「進行性線維化を伴う間質性肺疾患」に適応が拡大しています。特に「進行性線維化を伴う間質性肺疾患」には、特発性間質性肺炎との鑑別が難しい慢性過敏性肺炎、膠原病肺、IPFではない特発性間質性肺炎などが含まれ、治療の幅が広がることが期待されます。

しかし、医療費が高額になることが導入における問題になります。ピレスパの30日分の薬価は43,875円～131,625円であり、オフェブでは30日分の薬価は238,944円～357,984円となります。

胸部CTで明らかな蜂窩肺を認めるIPFは外科生検による組織診断がなくても難病申請をすることができ、医療費助成制度を受けることができます。

ところが、NSIPなどのIPF以外の特発性間質性肺炎の難病指定には外科生検が必要になり侵襲的です。また、過敏性肺炎には難病制度がありません。患者さんには医療費についてもお話をし、使用についてご相談する必要があります。また、食思不振、悪心、嘔吐、下痢といった消化器症状も高頻度に起こりますので、高齢者には使用しづらいことが多い薬になります。

当科では、上記のような制限についても考慮して適応を決めております。間質性肺疾患を疑う患者さんがおられましたら当科へご紹介いただけたらと存じます。

医務局 整形外科 副部長

谷内 孝次
YACHI KOJI

礼に始まり礼に終わる



整形外科の谷内と申します。古武術を学び始めて30年経ちました。武技の稽古と同時進行で精神修養をすることが大きなテーマです。

武の技は平和を守るためにあります。精神修養の要点は、自分の心の内側の怒りや我儘な思いをコントロールすることです。礼儀を大切にすることは相手を尊重する事で、例えば2時間の稽古の間に何十回も、お願いします、有難うございました、を言います。言っているうちに心が洗われます。日本の素晴らしい文化の一つだと思います。師より段位（五段錬士）を頂いておりますが、人生は修行ですので、鍛錬を続けて参ります。

我が家は子供たちが大きいので、最近は犬とキャンプに行くことが大きな楽しみです。キャンプ場で作って食べるカレーライス、朝淹れるコーヒーの美味しさは格別のものです。寂しい？ いえいえ、全くそんなことはありません。



箕面市立武道館 道場



キャンプ場にも愛犬



キャンプ場 ドッグラン

事務局 医事グループ

湊 優
MINATO YU

目標はスコア100切り



最近新調したドライバー

医事グループの湊と申します。今年で2年目になります。どうぞよろしくお願ひします。私の休日の過ごし方について簡単にご紹介したいと思います。

初めてコースを回ったときは、ゴルフはかなり体力のいるスポーツだな…と感じました。私の場合、ボールがどこに飛ぶのかわからないので走りまわっているだけかもしれませんが…。

しかし練習を重ねることで、ボールがまっすぐ飛ぶ確率が増え、最近では楽しくゴルフができるようになりました。

これからも練習を続け、スコアで100を切ることが私の目標です。

その他にもゴルフをしない日には、友達とカフェに行き休日を満喫しています。仕事を離れて自分の好きなことをしたり、ゆっくりする時間は本当に大切に、これが私に仕事の活力になっています。



コースは雄大な自然がいっぱい



もっと飛ばしたい



カフェ巡り

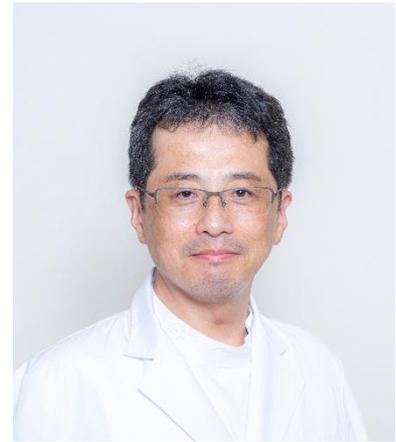
当センターでは、個性豊かなスタッフがそれぞれのセクションで明るくがんばっています。今後、この「はびきのパーソン」コーナーで紹介していきますので、少しでも当センターのスタッフに親しみを持っていただくと幸いです。

乳がんは早期診断と早期の個別化治療

大阪はびきの医療センター

乳腺外科 主任部長 乳腺センター長 安積 達也

日本外科学会専門医
 日本がん治療認定医機構がん治療認定医
 マンモグラフィ読影医
 日本乳癌学会乳腺専門医・指導医
 乳腺超音波技術認定医
 日本医師会認定産業医



日本人女性の乳がんは年々増加しており、日本人女性の乳がん罹患数は2021年予測で94,400人となっております。いまや、9人に1人が乳がんになる時代です。

乳がん罹患率は30代後半から急増しており、比較的若い世代の女性に多く、仕事、育児、家事など、最も忙しい世代の女性に増えている病気ですが、乳がんは早期に発見すれば治りやすい病気であり、早期診断、早期治療が重要です。

【診断】

乳房の症状で受診されたり、乳癌検診や人間ドックで要精査となった際には、マンモグラフィーや乳腺エコーで両側乳房スクリーニングを行います。

当院では3Dマンモグラフィー（トモシンセシス）を導入しています。3Dマンモグラフィー併用により、石灰化の描出に加え、これまで乳腺に隠れて見つかりにくかった腫瘍、distortion（乳腺の歪み）、FAD（左右乳房の非対称な部分）等乳がんの特徴的な病変に対する診断精度が大きく改善され、乳がん検出能の向上が多数報告されています。

確定診断のために穿刺吸引細胞診や針生検（マンモトーム生検）で病理検査を行います。さらにMRIで乳房内の広がり診断を、CTで全身の広がり診断（他臓器、リンパ節転移診断）を行い、手術治療を含めた乳癌治療方針を決めます。



3Dマンモグラフィー（トモシンセシス）

【個別化治療】

乳癌治療では乳癌の根治、再発リスクを軽減、症状の改善を目指して、手術、放射線療法、ホルモン療法、化学療法、分子標的療法など組み合わせて治療（個別化治療）を行います。

乳癌の周術期薬物療法では、乳癌を4つのグループに分類し、各グループに適した治療法を決定しています。

希望される方には治療方法の決定に遺伝子診断（Oncotype DX）も用いています。

当院では上記の乳癌だけでなく乳腺全般の診断・治療も行っていますので、是非ご紹介いただければと思います。

アドバンス・ケア・プランニングの実践

大阪はびきの医療センター

慢性疾患看護専門看護師 竹川幸恵



患者さんが、最期まで尊厳を持って自分らしく生き抜くためには、アドバンス・ケア・プランニング（Advance Care Planning：ACP）をチームで取り組むことが重要とされています。当センターでは、2017年にACPワーキングを立ち上げました。私たちは、「患者さんが、今後起こりうることや終末期医療の説明を受けることにより衝撃を受けることは自然であり、一時的に衝撃を受けても立ち直り自己の人生について考える力を有している」という考えを基盤とし（図1）、「患者さんに自分の人生を大切に考え自分らしく生きていただきたい」という強い信念で、外来・病棟で積極的に実施しています。

介入方法として、意思決定のプロセスと具体的な問いかけが示されている「患者との話し合いの手引き¹⁾」を活用することで、どのように関わればよいかわからないというACPの障壁を軽減することができています。また、意思決定プロセスで最も重要な患者さんの価値観を理解できるように「価値観シート（図2）」を作成し、患者さん・ご家族と対話しながら、価値観の把握に努めています。

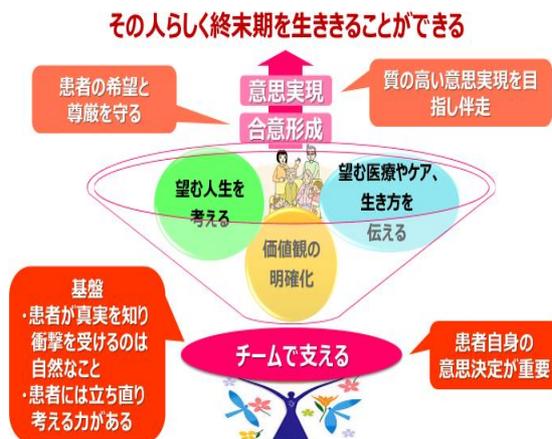


図1 当センターにおけるACPの考え方

【価値観：大切にしたい事、思い、希望】

- 1. 家族や周囲の人に負担をかけない事
- 2. 身の回りの事が自分でできる事
- 3. 職場や家庭内での役割を果たせる事
- 4. 他の人に弱った姿を見せない事
- 5. 大切な人と一緒に過ごすこと
- 6. 大切な人に伝えたい事を伝える事
- 7. 医療者となんでも言い合える関係を持つ事
- 8. 今後自分に起こる事や余命を詳しく知っておく事
- 9. その他

広島県地域保健対策協議会「私の心づもり」を参考に作成

図2 価値観シート

表1 患者との話し合いの手引きの一部

話し合いの流れ	患者に対する問いかけの例
4. 大切なことについて 聴く ・目標 ・恐れと不安 ・強さの源 ・欠かせない能力 ・延命治療の範囲 ・家族	・「もし、病状が悪くなった場合、どんなことが一番大切ですか？」 ・「今後の病状に関して、一番怖いと思っていることはなんですか？」 ・「どんなことが心遣いですか？」 ・「今後の病状について考える時、あなたを最も力づけてくれるものは何ですか？」 ・「あなたの人生にとって大切で、生きていこうと欠かせないと思われる能力は何ですか？」 (例：食べられること、動くことができること、喋ることができる事など)

1) 竹ノ内沙弥香：「患者との話し合いの手引き」を用いた話し合い。看護管理 2020；30：140-152.

ACP介入した患者さんやご家族からは、「今すぐの事ではなく、元気な時に考えることが大切と何度も説明をしてくれて不安はなくなり（終末期医療について）考えることができた」、「家族で話し合うことができた」などの言葉をいただいております。

また、患者さんは安定期を長く過ごすためには何が必要かを考え、セルフマネジメント力の向上や、「今」の時間を大切にやりたいことをするように変化しました。終末期には患者さんの意思を尊重した医療・ケアの提供ができております。

ACPは、シームレスな関わりにより促進します。ぜひ、患者さんが望む生活を実現できるように、地域の医師・メディカルスタッフの方々と協働させていただきたいと思っております。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

学術報告 さるーと



ロンドン大学衛生熱帯医学大学院で学んで

2021年9月から2022年9月まで英国ロンドンにあるLondon School of Hygiene & Tropical Medicine (ロンドン大学衛生熱帯医学大学院、以下LSHTM) にて、公衆衛生学を学びました。

当センター感染症内科は結核診療を一つの柱としており、2021年度は大阪府内で1171例の新規結核登録患者がいましたが、当センターでは入院だけでも171例の結核症の診療を行い、地域への啓発活動としてDOTSカンファレンスやコホート会議を通じて保健所との連携を行っております。これらの経験に加えて、2020年からのCOVID-19診療を通して感染症対策を含めた公衆衛生に興味を持つこととなり、系統的に学ぶことを決意するようになりました。

私が学んだLSHTMは1899年に設立された、感染症対策・疫学分野等において世界的に有名な公衆衛生大学院であり、WHOの現事務局長であるテドロス・アダノムも卒業生の一人です。授業は多彩な科目から選択出来、疫学や統計のほかに、免疫学や社会学、経済学、人類遺伝学など多方面からのアプローチで公衆衛生を学ぶことができるのが魅力の一つでした。

また、在学中は、院内組織である結核センターのStudent Liaison officerに選出され、世界中の専門家達とワクチン開発や診断学研究に関して議論したり、結核疫学に関して講演する機会をいただくなど貴重な機会に恵まれました。

今後は、WHOの掲げるEnd TB Strategyに関わり、結核罹患率の低下に貢献することができれば、と考えております。

感染症内科 医員 北島平太



London School of Hygiene & Tropical Medicine
(ロンドン大学衛生熱帯医学大学院)
エントランス



大学院徒歩圏内にある
ビッグベン

セミナーのご案内

第30回医療でつなぐ地域連携ネットワーク South Osaka Cure & Care(SOCC)を開催します

◆令和5年1月28日(土) 15:00~17:20 現地ならびにWEB開催
(当センター管理診療棟2階 第1会議室)

【教育講演】 座長 河内長野市医師会 会長 山口 竜司 先生
「多職種で支える在宅終末期ケア」
訪問看護ステーション 友楽園 統括部長 山崎 京子 先生
「がん診療拠点病院としての当院の果たすべき役割について」
肺腫瘍内科診療主任 佐藤 真吾

【特別講演】 座長 肺腫瘍内科主任部長 鈴木 秀和
「Precision Medicine が求められる最新の非小細胞肺癌治療」
大阪国際がんセンター 呼吸器内科副部長 田宮 基裕 先生

参加希望の方は、下記HPをご参照のうえ、事前に申し込みをお願いします。

https://www.ra.opho.jp/wp-content/uploads/2021/05/socc_no30_20220120.pdf

または、「はびきの SOCC」で検索

第9回 はびきのアカデミーを開催しました

- ◆11月19日(土) 15:00~16:35 (集会及びWEB開催)
- ・Session1 「産婦人科における遺伝子検査」 産婦人科副部長 安川 久吉
 - ・Session2 「小児の喘息性疾患～長期管理を中心に～」 小児科主任部長 亀田 誠

当日は、集会、WEBあわせて30名のご参加をいただきました。





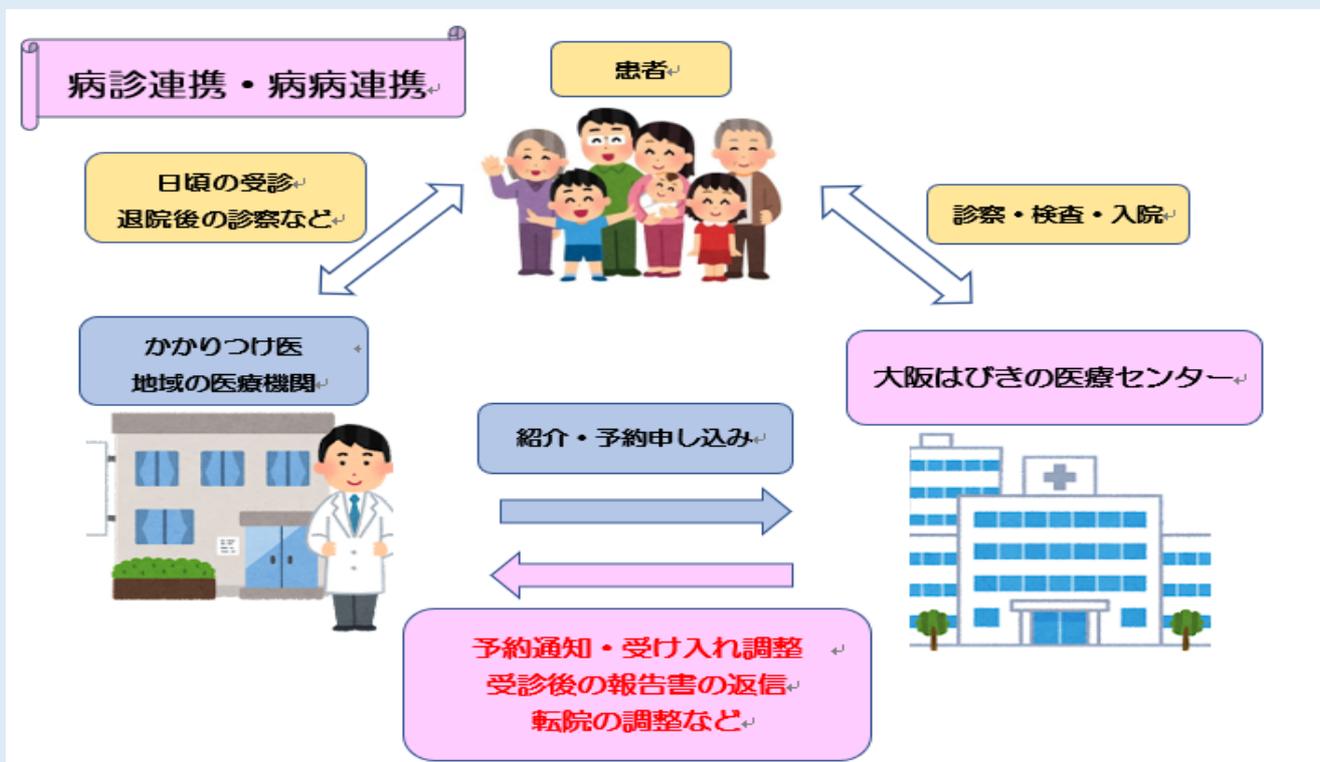
PICK UP

「地域と病院をつなぐ」地域医療連携室



当センターには患者総合支援センターがあり、「地域医療連携室」「入退院支援室」「患者総合相談室」の3つの部門で構成されています。今回はその中の「地域医療連携室」の業務をご紹介します。

地域医療連携室は、「病院の窓口」であることを念頭に、地域医療機関の先生方との連携をスムーズに行い、患者さんにとってより良いタイミングで受診していただけるよう、迅速かつ丁寧な対応を心がけています。



セカンドオピニオンの受付、地域への広報活動や研修会や講演会のご案内
登録医のご登録、オンライン予約システム（C@RNA Connect）、はびきのメディカルネット（IDリンク）
などの登録手続きなどの受付も行っています。



本年5月の新病院開院に向けて、「地域に信頼され、地域
になくはない病院」となれるよう、今後も地域の先生方と連
携を深めてまいりたいと思います。

ご不明な点やお困りごとなどございましたら、お気軽に地域医
療連携室までお問い合わせください。

＜ご連絡・お問い合わせ＞

大阪はびきの医療センター地域医療連携室
直通:072-957-8030 代表:072-957-2121
FAX:072-957-8051

メールアドレス ; habikino-chiiki@ra.opho.jp

受付時間:月曜～金曜9:00～17:30

連携医療機関（登録医）のご紹介

医療法人 光仁幸会 西本産婦人科

〒580-0016 大阪府松原市上田3-7-25

電話 072-331-0512

URL <http://nisimotosekio.sakura.ne.jp/>

近鉄南大阪線河内松原駅前産婦人科を開業している西本です。
(貴院へは車で約30分の距離です。)

昭和52年に昭和大学を卒業し、現在71歳になっています。
平成26年に分娩取り扱いを終了し現在は外来診療のみさせていただきます。
妊婦健診、がん検診、その他婦人科一般で特に得意分野はなく婦人科受診のきっかけとしての役割かと考え診療させていただき、そして貴院などの基幹病院へ分娩、手術などの高度医療で紹介させていただいています。大変お世話になっています。
登録医としてお役に立てればと考えております。



診療時間	月	火	水	木	金	土	日	祝
9:00-12:00	○	○	○	/	○	○	/	/
16:30-19:00	○	○	○	/	○	/	/	/

第4水曜日は休診とさせていただきます。

地域医療支援病院である当センターでは、地域の医療機関と当センターが協力のもと相互の機能を有効に活用し、診療情報の交換などによって医療連携を深め広げることにより、地域全体として患者さんにとってより質の高い医療を提供していくことを目的として登録医制度を実施しています。ぜひ登録をお願いいたします。ご質問や登録ご希望の先生方はお手数ですが地域医療連携室までご連絡をお願いします。

◆登録医のご申請のお願い

大阪はびきの医療センターでは、地域の医療の質向上をめざし、地域医療機関の先生方と連携を深めるよう登録医制度を設け、ご登録をいただいております。

ご登録いただきますと、

- 1, ご紹介いただいた患者さんに入院が必要な場合は開放病床をご利用
- 2, 今後の研修や勉強会のお知らせはもちろん、

過去の研修、勉強会の動画も閲覧いただくことが可能です。

申請にあたっては、各地区の医師会への事前登録が必要ですが、この機会に、是非登録医にご登録いただきますようお願いいたします。

詳細は、以下、ホームページをご参照ください。

はびきの医療センター 登録医 と検索



(問い合わせ) 地域医療連携室 までお願いします。

◆初診の患者様のご予約についてのご案内◆



➤ 肺腫瘍内科と呼吸器内科は完全予約制となっております

事前の予約がない状態で、直接お越しいただいても、当日の診察はできませんので、予めご了承ください。

- 上記以外でも、皮膚科、アレルギー・リウマチ内科、感染症内科、耳鼻咽喉・頭頸部外科は受診時に紹介状が必要となっております。ご了承くださいますようお願いいたします。

当センターでは、症状が安定してきた患者さんは地域のかかりつけ医の先生方へ積極的に逆紹介を行っています。病状の変化等で、再度精査が必要な際は、再度当センターへご紹介をお願いいたします。

<院内診療科のご案内>

感染症内科 肺腫瘍内科 緩和ケア科 呼吸器内科 消化器内科 循環器内科
アレルギー・リウマチ内科 小児科 消化器外科 乳腺外科 眼科 呼吸器外科 皮膚科
産婦人科 放射線科 泌尿器科 耳鼻咽喉・頭頸部外科 歯科 麻酔科
リハビリテーション科 病理診断科 臨床検査科 整形外科(R4.4開設) 集中治療科
外来化学療法科 呼吸器内視鏡内科 救急診療科(R4.4開設) 腎臓内科(R4.7開設)



地方独立行政法人大阪府立病院機構

大阪はびきの医療センター

私達は、最新の医療水準で、最適な医療サービスを、思いやりの心をこめて提供します。

〒583-8588 大阪府羽曳野市はびきの3-7-1

TEL : 072-957-2121(代)

<https://www.ra.opho.jp/>

FacebookやInstagramも
ぜひご覧ください



Facebook



Instagram